

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3770500290
法人名	有限会社ルネス
事業所名	グループホームたんぼぼ
所在地	香川県観音寺市吉岡町960番地10 (電話)0875-24-3661

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年6月19日	評価決定日	平成20年7月24日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年5月1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	24人	常勤	15人 非常勤 9人 常勤換算 21人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 平屋造り 1階建ての1階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	12,000円+実費	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 900円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	27名	男性	5名	女性	22名
要介護1	13名	要介護2	9名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	59歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三豊総合病院	今川内科医院	久保歯科医院
---------	--------	--------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園住宅地の一角に、向いあった平屋建ての民家風な建物と自家菜園を持ち、施設の入り口に通所介護事業所があり、コミュニティ化した静かなたたずまいである。自由に入出入りできる玄関を入ると天井から自然採光が入り、静かで家庭的な雰囲気空間になっている。

管理者、職員のグループホームに対する思いは深く、職員全体で利用者の持つ能力、身体機能を維持できる支援を大切にできるケアに取り組んでいる。職員も積極的に六つの委員会活動をとおして改善や工夫がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回までの改善課題は理念の共有や終末期対応方針などについて、課題が示されていたが職員間で検討を重ね、グループホームとしての最適な方策を考え、解決できる内容について進展に向け取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニットごとに職員全体で話し合い、改善計画を立てて1年間をかけて取り組んでいる。各ユニットの管理者は管理者会で報告し検討を行うなど幅広く意見交換がされている。職員全体のミーティングは最低月1回以上開催され、職員の意見を積極的に活かす姿勢がみられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、外部評価の後に検討委員構成による会議型と、事業所活動に参加し実際に利用者の状況を見てグループホームを理解していただくという参加型により開催されている。家族や関係者が参加をすることで、少しずつ地域の理解が深められ、委員の参加の幅も広がっている。また、事業所の考え方や運営の現場を所長や管理者が推進委員に伝えていく努力をしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見ポストは一箇所設置されているが、家族は投書するより、直接職員に伝えられる信頼関係づくりができています。意見や不安は、すぐに既定の様式に記録し、管理者や管理者会などで対応方法を考え、家族に伝えている。職員には対応方法を周知、教育し、些細な意見・苦情にも全職員が真摯に対応をするという姿勢がみられた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会へ加入はしていないが、文化祭やお祭り、井手さらいなどに参加し、地域の一員としての役割を果たしている。地域の方も散歩時は気軽に声をかけていただくなど、人間関係も深まっている。また、事業所から認知症サポーター養成講座の講師を行うなど認知症理解の活動のなかでの連携も図っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者のありのままを受け入れ、家庭的環境での笑顔溢れるケアを目指す事を理念として運営している。地域密着型のサービスとしての理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向け、行動指針として職員が「みんなで必ず守ること」を、自分達で分かり易い言葉で表現している。指針は共有し日々の実践で取り組んでいる。職員は行動指針を重視しており、行動の手引きとしては優れている。理念を実践する指針とするのであれば、日々の実践で取り組んでいる地域での暮らしを支える取り組みを入れることが望まれる。	○	行動指針は、職員の行動、接し方の手引きとしては優れている。理念の実践に向けて地域密着型サービスの地域での暮らしを支えるための取り組みの視点を指針に明文化することが望まれる。そして、利用者の暮らしの継続性を支援する先進的な事業所の取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭やお祭り、井手さらいなどの地域活動に参加している。事業所の花火大会の参加を案内するなど地元の人々との交流にも努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で評価している。外部評価を基に一年間の改善計画を立て、ユニットごとに取り組んでいる。月1回は管理者会や全体ミーティング会を開催し、職員全体に改善内容や進捗状況が分かるような記録にして取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の方法を会議形式と行事参加形式と柔軟な運営をしながら意見交換や報告をしている。参加型では行事参加を通して、実際に利用者の状況を知っていただき、地域との関係づくりの機会としている。外部評価後には会議形式で報告し意見を話しあうなど、委員の意見を取り入れてサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市包括支援センター主催の会議への出席や、市担当者に事業所の考え方を伝えたり、機会を捉えて情報交換や情報収集を行うなど、関係づくりに努力してサービス向上につなげている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	たんぽぽ便りを月1回発行し、利用者の暮らしぶりを知らせている。また、家族の面会時や電話などで近況を知らせている。金銭出納簿は随時確認してもらい、領収書や出納簿のコピーを渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	些細な意見も真摯に受け止め、解決・対応方法を管理者会で検討し、家族にも報告している。職員にも伝え、改善している。外部への苦情申し立てについては、契約書を結ぶ時に説明している。また、運営推進会議には家族も参加し、意見が運営に反映できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットで職員を固定し、定着率がよくあまり交代はない現状である。異動の職員や新しい職員は利用者で紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修予定の周知や適任者の受講（派遣）などで計画的に育成している。研修内容はミーティングや勉強会で報告し、報告書を作成して閲覧できるようにしている。また、事業所独自に年間教育計画を立て、全職員が参加する勉強会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム事業所と意見交換、情報交換を電話や訪問時に行っている。近々、グループホーム協会の相互事業評価を行い職員育成、サービス向上に努める予定がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスを利用されている方の入居もある。事前面接から入居までに馴染みの関係はできている。介護計画は入居1か月で見直し、利用者にあったサービスに努めている。入居した日は家族と同じ部屋で宿泊していただくなど、本人・家族の安心と納得するための工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人のできることを大切に、利用者の得意分野を常に見つけ伸ばすことを職員が共通認識できている。日々の生活の中で利用者の得意分野を活かしながら職員は、学ぶ姿勢を持ちお互いに支えあう関係もできてる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉かけや表情などから、利用者の一人ひとりの思いや何を望んでいるかの把握に努めている。表現が困難な利用者は表情や行動などから本人が望むことの把握に努力し、思いや意向の把握をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	半年に1回はホーム独自の調査票で本人の望んでいることや家族の意向調査を行っている。また、介護記録は様々な工夫をしている。この過程で評価を行い、職員の気づきやアイデアをミーティングで検討し、このことを基に介護計画を作成している。利用者の「自分の持っている力」を維持あるいは伸ばすことを重視し、利用者本人の生の声を聴くことを大切にする取り組みを始めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しを行った期日を赤字にするなど見易い工夫で、きちんとできている。必要時は関係者との話し合いや毎月のミーティング、管理者会でも検討し、幅広く意見を取り入れて実情に応じたケアにつながる介護計画が作成されている。記録の中で健康チェックを1か月の表にして緩やかな変化にも気づくような工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	往診や理容訪問があり、希望者は利用している。通院介助、外出支援は状況に合わせて行っている。医療連携体制を活かして生活の継続と健康チェック、アドバンスなど必要な支援を柔軟にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関のほかに、希望するかかりつけ医で継続して適切な医療が受けられるような支援をしている。新たに必要となった場合は家族と相談して決めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に変化があった時に、家族・主治医と話し合いながら対応を考えているが、早い段階からの繰り返しでの話し合いはされていない。終末期の介護も実践されているが、今年度は、職員に勉強会で終末期に関する知識を深め、施設で対応できることを考えている段階である。	○	重度化した時に医師から説明され、家族の希望や医療機関利用の選択について確認している。できれば、状態の変化のない早期から何度か利用者・家族を含め関係機関を交えての話し合いをするなど統一した方向での支援が望まれる。この機会に職員・関係者と終末期、看取りの勉強会などで連携を深め、利用者や家族の意向に沿う方針での支援を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者へのかかわり方は礼儀正しく接している。さりげない声かけや口調、態度に気をつけて対応するような職員教育にも努力している。個人情報の取り扱いについても明文化し、利用目的、開示、提供、相談窓口などを規程している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの状態や思いを配慮しながら柔軟な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを3ユニットで分担して調理している。利用者の個々に合わせての準備や配膳、片付けの支援をしている。BGMが流れ、和やかな雰囲気づくりをし、利用者の馴染みの箸、湯飲みを使用するなどにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日の基本的流れで行っているが、利用者の入浴したい日や希望する時間の入浴を考慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員が利用者の得意分野を見つけて裁縫、絵を書いたり、ラジオ体操など役割を持っている。月単位で利用者全員でひとつの作品を作り、ユニットで様々な作品を展示し楽しみに繋がる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設が自由に戸外に出られる構造で、利用者は外のベンチに座り、花を見る環境にある。利用者自身がお買い物や散歩に出かけるなどの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中開錠しており、自由に出入りができる。ひとりで出かける可能性がある利用者の状況を察知し、呼び止めず、そっと見守り、安全に配慮した支援をしている。無断で外出した場合に地域や関係機関で使用できる顔写真入りの特徴を記載したファイルを作成している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震・防水害マニュアルは冊子で作成されている。職員による安全委員会で年間計画を立て、火災訓練、救急訓練も積極的に実施している。防災頭巾の作成や飲料水の備蓄も行っている。火災訓練は昼間の対応について行っているが、夜間一人での対応についての職員訓練が望ましい。	○	実際の昼間想定火災訓練は行っているが、職員数が少ない夜間などを想定し、一人でどのように行動し連絡するのかなど判断・行動できるような訓練が望まれる。発生時に他ユニットや地域の人を確保できるような役割分担なども日頃から話し合うことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がメニュー委員会を開催し、献立、水分、摂取カロリー(1日1600cal)、食品管理など話し合いができています。食べやすい状態への配慮もできています。摂取量は毎食ノートに記載し、摂取量や水分摂取の管理をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は自然採光を取り入れ、すだれを利用して柔らかな日差しの工夫がある。廊下、トイレ、食堂は生活臭もなく、清潔で不快な音もない。玄関には季節の花が生けられており、自然の光や風を感じながら生活でき、利用者がわが家を思える空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個室で使い慣れた家具で本人の意向にそった居室にしている。本人の好みの部屋づくりの中で清潔感がある。		